

2022(令和4)年度 尚絅学院大学 AI データサイエンス教育プログラム

に係る自己点検・評価書

<学内からの視点>

(1) プログラムの履修・修得状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目であり教務部委員会において単位修得状況を把握している。教育開発推進委員会において、授業の内容や運営及び質向上に向けて取り組みを行っている。初年次教育の位置づけで開設しており、不合格の場合は不合格者対象に特別開講を行うなど早い段階で修得できるよう対応している。

(2) 学修成果

尚絅学院大学で作成している「成績評価のガイドライン」に基づき、シラバスでは科目の到達目標を明示している。毎回、授業の内容に関連した小テストやミニッツレポートを課すことで学生の理解度を図りながら到達目標をクリアできるよう取り組んでいる。

プログラムの学修成果は、単位修得率及び平均 GPA 並びに成績分布状況を確認することで点検・評価が可能である。さらに、授業評価アンケートにおいて、学生自身が到達目標に対しどの程度修得できたのか自己評価を行うことを実施する予定であり、多面的に学修成果が把握できるように準備を進めている。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和4年度全学類開講の「AI 社会とデータサイエンス」で実施した授業改善アンケート結果において(1年生全学類)、アンケート回答率50%以上のクラスにおいては、「授業の到達目標に示された内容(知識や技能など)が身についたと思いますか」の問いに対して5段階評価で「そう思う」「ややそう思う」との回答が8割~9割を占め、学生から高い評価を得ている。令和5年度からは、授業の改善のみならず、授業を受講した学生の自己評価もアンケート項目に含まれるため、教員FDを実施し、さらなる学生の理解度向上に向けて授業方法及び教材の見直しを行う。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目となっている。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目となっている。

<学外からの視点>

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

進路就職課において全学類の卒業生について就職先の調査を行っている。AI 社会とデータサイエンス科目の開始は令和2年度であり、本プログラムの開始は令和4年度である。本プログラムの修了者が社会に出るのは令和7年度以降となる見込みであるが、卒業調査においても可能な範囲で活躍状況及び企業の評価について調査する予定である。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

尚絅学院大学外部評価委員会において、地元産業界よりデジタル人材の深刻化と、Excel や Word などの特定の技術だけではなく、デジタル技術を複合的に活用できる人材が必要であることが話題として出された。本学としては、卒業時まで「IT パスポート」を取得して社会へ送り出すことを目標としており、教養教育科目において「AI 社会とデータサイエンス」及び「情報リテラシー」を必修科目として開設し、全学的にデジタル教育を実施している。

●数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業では、日常生活で利用されている身近なAIの事例を紹介して、幅広い関心を育むよう工夫している。オンライン動画教材などを利用して、AIの動作原理やその意義を楽しく理解できるようにしている。COVID-19の影響で、授業は主にオンライン型で実施されたが、オンラインチャットやアンケート機能などを利用して、学生の声を収集・分析して授業中にフィードバックするなど、学生参加型授業になるよう工夫をしている。

データ分析については、オープンデータの探し方、エクセルを用いた前処理や簡単なデータ分析のプロセスを実演し、学生自身に実際に操作させて体験させている。各自が興味をもったデータを分析する課題を与え、試行錯誤や発見を経験できるように授業をデザインしている。

●内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業準備の教員負担が大きく、レベルのばらつきが生じやすいコンピュータ演習の授業コンテンツについては、情報教育WGが、授業計画、授業スライド、演習用データや課題を作成し、共通教材として担当教員に提供している。また、担当教員からのフィードバックを得て、教材の改良を行っている。

本学では、すべての授業について受講者による授業改善アンケートを行っている。本教育プログラムの授業については、教育開発推進委員会・情報教育WGにより分析・総括され、担当教員にフィードバックし、受講生の評価がより高まるよう内容を点検・改善していく。